

第13編 消 防

消 防 本 部

1 消防職員・団員の定数と現員

(1) 消防職員

(平成30年4月1日現在)

区 分	消防正監	消防監	司令長	司 令	司令補	士 長	副士長	消防士	その他の職員	計
定 数	1	5	19	40	91	83	0	81	1	321

(2) 消防団員

(平成30年4月1日現在)

区 分	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員	計
定 数	1	5	18	18	61	78	329	510
現 員	1	5	18	18	51	62	281	436

2 市勢と現有消防勢力の対比

(1) 本部・署

(各年4月1日現在)

年別	区分 職員数	消防職員1名に対する			署・支署に対する			消防車1台に対する		
		面積km ²	世 帯	人 口	面積km ²	世 帯	人 口	面積km ²	世 帯	人 口
28	319	6.70	309	575	213.65	9,861	18,349	142.43	6,574	12,233
29	321	6.65	307	566	213.60	9,858	18,159	142.40	6,572	12,106
30	321	6.65	306	557	213.60	9,832	17,890	142.40	6,555	11,926

(2) 消防団

(各年4月1日現在)

年別	区分 団員数	消防団員1名に対する			1分団に対する			消防車1台に対する		
		面積km ²	世 帯	人 口	面積km ²	世 帯	人 口	面積km ²	世 帯	人 口
28	455	3.0	208	385	75.7	5,247	9,734	47.00	3,257	6,042
29	447	3.0	211	388	75.7	5,245	9,624	47.00	3,255	5,973
30	436	3.1	216	392	75.7	5,232	9,496	47.00	3,248	5,894

(3) 消防車・救急車の出動回数について

ア 火災・警戒出動概要

平成29年中の出動状況は65件の火災が発生し延べ405台の車両、1,809名の隊員が出動し消火活動を実施、その概要は次表のとおりである。

(ア) 火災出動状況

区分	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
		火災件数	7	3	2	9	10	6	6	4	1	5	5	7
出動台数	消防署	50	21	10	31	35	22	38	10	10	23	33	52	335
	消防団	16	5	3	4	5	3	9	0	2	3	12	8	70
	計	66	26	13	35	40	25	47	10	12	26	45	60	405
出動人員	消防署	181	76	39	113	131	70	140	29	31	73	122	189	1,194
	消防団	166	34	31	35	30	36	75	0	27	27	91	63	615
	計	347	110	70	148	161	106	215	29	58	100	213	252	1,809

(イ) 警戒出動状況

出動種別	区 分 件 数	出 動 台 数 (台)			出 動 隊 員 数 (人)		
		消防署	消防団	計	消防署	消防団	計
警報器等	55	96	4	100	381	34	415
油・ガス	115	235	0	235	877	0	877
集合煙突	5	6	0	6	28	0	28
異常燃焼	7	26	5	31	96	40	136
そ の 他	941	1,957	33	1,990	7,421	182	7,603
計	1,123	2,320	42	2,362	8,803	256	9,059

(ウ) 火災・警戒出動状況の推移

区分		年次別	平成27年	平成28年	平成29年
火災出動	件 数 (件)		64	63	65
	台 数 (台)		410	451	405
	人 員 (名)		1,869	1,973	1,809
警戒出動	件 数 (件)		1,415	1,234	1,123
	台 数 (台)		2,623	2,546	2,362
	人 員 (名)		10,491	9,804	9,059

イ 救助出動概要

平成29年中の救助出動は67件で、これに対し370台の車両、1,476名の隊員が出動し業務を遂行した。
事故種別ごとに出勤件数をみると、交通事故及び水難事故が全体の77.6%を占めている。

(ア) 前年比救助出動状況

件数	年別比較	平成29年(A)	平成28年(B)	比 較 増 減	
				件数(C)	(C) / (B)
出動件数		67件	47件	20件増	42%増

(イ) 事故種別出動状況

種別	交通事故	水難事故	機械による事故	建物等による事故	その他	計
出動件数(件)	36	16	2	4	9	67
出動台数(台)	177	99	6	52	36	370
出動人員(名)	665	359	23	294	135	1,476

(ウ) 署々別出動状況

方面別	中央方面(うち東方面)	西方面	計
出動件数(件)	37件(10件)	30件	67件

(エ) 救助出動件数の推移

年次別	平成27年	平成28年	平成29年
出動件数(件)	61件	47件	67件

ウ 救急活動概要

(ア) 資格者及び救急隊の状況

(平成30年4月1日現在)

a 救急救命士 資格者 71名

b 救急課程 資格者118名

c 救急隊の配置状況

- ・中央救急隊
- ・東救急隊
- ・愛国救急隊
- ・西救急隊
- ・阿寒救急隊
- ・阿寒湖温泉救急隊
- ・音別救急隊
- ・白糠救急隊

計 8 隊運用（全隊高規格救急自動車導入）

(イ) 年次別救急出動状況

平成29年の救急出動件数は9,686件、搬送人員8,936人で、前年に比べ出動件数においては208件増加し、搬送人員においても386人増加した。これは、住民20人に1人が救急車によって搬送されたことになる。また、1日平均26.5件出動したことになる。

年次別救急出動状況の推移

年 別	平成27年	平成28年	平成29年
出動件数（件）	9,274	9,478	9,686
搬送人員（人）	8,435	8,550	8,936
1日平均出動件数	25.4	25.9	26.5

(ウ) 事故種別救急出動状況（平成29年）

救急出動件数を事故種別ごとにみると、下記のとおり急病が最も多く、次いで一般負傷、交通事故の順となっている。

区 分	急 病	一般負傷	交通事故	その他	計
件 数	6,420件	1,209件	407件	1,650件	9,686件
全件数に対する割合	66.3%	12.5%	4.2%	17.0%	100%

3 平成29年の火災状況

火災件数	65件	(63件)
焼損床面積	1,809㎡	(1,245㎡)
焼損表面積	201㎡	(241㎡)
損害額	46,596千円	(132,548千円)
死者	3名	(3名)
負傷者	14名	(16名)
林野	0 a	(0 a) ※ () は前年数値

(1) 火災概要

平成29年中の火災は、65件発生し前年より2件（3.2%）増加、28世帯、68名が災した。

火災種別では、建物火災38件（全火災の58.5%）、車両火災11件（全火災の16.9%）、林野火災0件、船舶火災1件（全火災の1.5%）、航空機火災0件、その他の火災15件（全火災の23.1%）となっている。

前年と比較すると建物火災は6件減少、車両火災は1件増加、林野火災及び航空機火災の発生は無く、船舶火災は1件増加、その他の火災は6件増加、爆発火災の発生は無い。

建物焼損面積合計は、2,010㎡で前年より524㎡増加し、建物火災1件あたりで比較すると焼損面積は

1件あたり52.9㎡を焼失、前年より19.1㎡の増加となっている。

損害額は、4,659万6千円で前年より8,595万2千円減少し、火災1件あたり71万7千円の損害を受けたことになる。

死者は3名で前年と同数、負傷者は14名で前年より2名の減少、死者の発生した火災種別は建物火災が3件となっている。

(2) 火災統計

ア 月別火災状況

火災を月別にみると、5月が10件（全火災の15.4%）で最も多い。最も少ない月は9月の1件（1.5%）となっている。月平均5.4件の火災が発生している。

イ 出火原因別の火災発生状況

たばこ、ストーブ、電気関係各6件（各9.2%）、こんろ、放火・放火の疑い各5件（各7.7%）となっている。

4 消防車両等の現況

種 別		管 理 区 分					合 計
		消防本部	中央署	西署	東分署	消防団	
消防ポンプ自動車	普通	-	-	-	1(1)	19	20(1)
	水槽付	-	3(1)	8(1)	3(1)	2	16(3)
はしご自動車	直伸	-	1	1	-	-	2
	屈折	-	1	-	-	-	1
化学消防車		-	-	1	1	-	2
特 殊 車	指揮隊車	-	1	-	-	-	1
	機材運搬車	-	1	4	-	-	5
	小型はしご車(12m級)	-	1	-	-	-	1
	救助工作車	-	1	-	-	-	1
	災害支援車	-	-	-	1	-	1
	小型動力ポンプ付水槽車	-	1	3	-	-	4
救急車		-	3(1)	7(2)	2(1)	-	12(4)
その他の車両	緊急車	5	3	5	2	-	15
	その他	4	-	1	-	-	5
合 計		9	16(2)	30(3)	10(3)	29	94(8)

※ () 内は予備車の内数を示す